

レファレンス コーナー

インドネシアの二〇〇〇年人口・住宅センサス概観

石崎えり子

一国の社会・経済情勢を概括できる人口・住宅センサス（日本では国勢調査と呼ぶ）は基本統計であると同時に、その結果が各種の政策立案の基礎資料として利用されることから特に重要な統計調査のひとつとなっている。それゆえ国際比較を可能とするための国際基準が国際機関を中心に戦前から作成されていて、戦後は主に国連から勧告がされている。二〇〇〇年の人口・住宅センサスで

は人口に関しては、地理的及び国内移動属性・世帯及び家族属性・人口及び社会的属性・出生及び死亡・教育的属性・経済的属性・国外移動・身体障害に関する事項が、住宅に関しては建物・居住・世帯／居住者の事項について勧告がされている。ここでは二〇〇〇年に行われたインドネシアの人口・住宅センサス（以下センサスという）の概観とセンサスの統計指標から探るインドネシアの人々の生活環境について紹介したい。

一九六〇年に独立後第一回目の人口センサスを実施した後は一九七一年、一九八〇年、一九九〇年とほぼ一〇年毎に実施している。一九八〇年センサスからは勧告に沿って住宅センサスも併せて行っている。第五回目となった二〇〇〇年センサスでは、州の行政区分に大きな動きがあった。まず、国連暫定地となっていた東チモールが二〇〇二年五月に独立した。そして新たに四州（バンカ・プリトウン群州、バンテン州、ゴロンタン州、北マルク州）が誕生し、二州（アチエ州がナングロ・アチエ・ダルサラーム州に、イリアン・ジャヤ州がバブア州に）が名称を変更した。センサス実施時には三〇州となり、それ以降にも二州（リアウ群島州、西イリアン・ジャヤ州）が新たに誕生している。

都市ではウジュンパンダンがマカッサルに改名された。その他の自治体レベルに至っては新設、分離独立も合わせると大幅な変更がみられる。

その背景には一九九九年誕生したワヒド政権下での中央集権主義から分離独立あるいは地方分権への政治的な流れが関係している（詳しい政治背景や位置関係などはアジア経済研究所編『アジア動向年報』(AARJ)を参照)。二〇〇〇年センサス報告書には人口及び住宅に関する統計指標がそれぞれ全国版と各州別に主として性別／年齢（または五歳年齢階級）別／都市・農村別に掲載されている。Penduduk（州名）：hasil sensus penduduk Indonesia = Population（州名）：results of the 2000 population census (INDNE/1r3) Statistika penunahan provinsi（州名）：hasil pendataan bangunan sensus penduduk, 2000 = Housing statistics (州名) provinces : result of the 2000 population census (INDNE/1r 5)。速報版については Penduduk Indonesia : hasil sensus penduduk 2000 (INDNE/1r2) がある。また一九八〇年からは人口・住宅センサス、農業センサス、経済センサスの各実施時に村落に関する概括的な情報を収集した報告書 Statistik potensi desa Indonesia 2000 = Village potential statistics, (INDNE/1r1) Statistik potensi desa provinsi（州名）2000 = Village potential statistics province of (州名) 2000 (INDNE/1r2) も併せて出版されている。これらのセンサス報告書はすべて中央統計庁 (BPS Statistics Indonesia) から出版されている。二〇〇〇年センサスが第七回

目となるこの報告書には、州／自治体別に住宅・家庭の環境（世帯の構成、部屋数、主な収入源、就学の有無、飲料水・風呂水の水源、料理の燃料、ごみの処理方法、排水溝の状態、トイレの有無、電化製品の有無等）や村落環境（生産施設、交通手段、通信・社会・礼拝・教育・スポーツ・レクリエーション・保健・医療の各施設、銀行数、生協数、町の産業、犯罪件数、道路、河川、橋及び環境問題、財政状態）などの統計指標が村を単位として掲載されている。

冒頭でセンサスから一国の社会・経済情勢が概括できると述べたが、換言するとセンサスにはその国の人々の生活環境を探る手がかりが沢山含まれているとも言える。センサスのデータとこれら村落の社会環境指標とを繋ぎ合わせることで人々の暮らしの一端が浮かび上がってくる。当図書館では、多くの開発途上国のセンサスを収集しており所蔵状況については図書館ホームページのOPACによる検索や、「目録・リスト」から調べることができる。(http://www.de.go.jp/japanese/library/) 開発途上国に関心をお持ちの方には是非一度センサスを手にとって見て頂きたい。

(いしざき えりこ) アジア経済研究所図書館

《参考資料》

総務省統計局 于 (http://www.stat.go.jp) (世界の国勢調査)